

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【熊本県・宇城市】

1 実践テーマ	【Ⅲ、Ⅴ】
2 実施対象者	熊本県立松橋支援学校、高等部専門学科全生徒54人
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (保健体育)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックに出場した選手と直接ふれあうことで、スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成とスポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築について考えるきっかけとする。
5 取組内容	<p>オリンピックによる講演会及び実技指導</p> <p>平成30年11月22日(木)に本校にて、江里口匡史氏(ロンドンオリンピック陸上100m、4×100リレー出場)を迎え、講演会及び実技指導を行なった。</p> <p>(1) 講演</p> <p>「陸上を通して学んだこと」という題で行なわれた講演では、オリンピックロンドン大会について、引退までの経緯、これからについて、の3つの内容で講演していただいた。</p> <p>オリンピックロンドン大会については、個人で出場した100mで力を出しきれず予選敗退。非常に悔しい思いをしたあと、気持ちを切り替え、1週間後に臨んだ4×100mリレーでは、4位となることのできたこと、日本記録の樹立やメダル獲得には至らなかったものの、4人で力を出しきることができたことなどをお話していただいた。</p> <p>また、自身の競技力の秘訣について、「何でだろう? どうしてだろう?」「じゃあこうしてみよう」と、常に考え続けたことにあると話され、生徒たちに対して「考える力は様々な場面に生きてくること」や「考えるクセをつけることが大切」だということを伝えていただいた。さらに、陸上を通して学んだことには、人としての成長、人とのつながり、挑戦する楽しさの3つを挙げ、特に3点目については、「失敗も成長につながる。どんどん挑戦してほしい」と生徒たちにメッセージを送っていただいた。</p>

	<p>(2) 実技指導</p> <p>準備運動の後、ウォーミングアップとしての姿勢づくりや簡単なジャンプ、ストレッチ、長座やうつ伏せの体勢からの変形ダッシュや、様々な動きを取り入れた陸上の基本ドリルを行なった。江里口さんから、身体を上手に使えるようになることが速い走りにつながると説明があり、ミニハードルを用いたジャンプドリルやスタンディングスタートの練習を行なった。最後は、江里口さんのスタートダッシュを実演していただいた。</p>
6 主な成果	<p>講演内容からみた成果</p> <p>①オリンピック出場という、生徒が想像できない経験をもとにオリンピックの素晴らしさ等話を話していただき、2020年の東京オリンピックへの関心がさらに高まった。</p> <p>②江里口選手自身が「陸上競技から学んだこと」として、怪我からの復帰した体験談や「常に考えること」の大切さを伝えていただき、生徒自身も自らの学校生活等と照らし合わせて考えることができた。</p> <p>実技指導からみた成果</p> <p>①短距離の走り方、ウォーミングアップ等を体験した。</p> <p>②実際に江里口選手のスタートダッシュを体感したことで、短距離走に対する意欲の向上が見られた。</p> <p>最後に、質疑応答の時間を設定した。ここでは、期待やプレッシャーを受けたときの対処法・健康管理の方法・体力維持のために努力していること・走った後のケア方法等について、生徒が質問した。江里口選手から直接答えていただいたことで、生徒たちはより理解を深めることができた。</p>
7実践において工夫した点(事業の特色)	<p>生徒たちの日々の活動に関連(陸上部があるので)する内容を依頼し、より身近に感じることができるようにした。</p>
8主な課題等	<p>講師と実施校の職員が、内容等に関して直接打ち合わせをして、検討した上で、事前学習等から取り組むとさらに充実したものになると感じた。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>本校には、知的障がいと肢体不自由の知肢併置校なので、来年度は車いすのパラリピアンを招聘できればと考えている。</p>